

クロカジキ 大西洋

Blue Marlin, *Makaira nigricans*



利用・用途

刺身、切り身（ステーキ）、ソテー

管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会（ICCAT）

生物学的特性

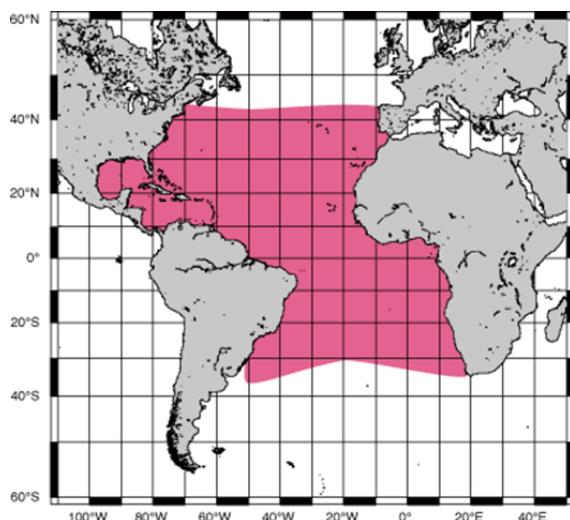
- 体長・体重：下顎叉長 2.8 m・200 kg（雄）、下顎叉長 3.8 m・500 kg（雌）
- 寿命：調査中
- 成熟開始年齢：2～4歳
- 産卵期・産卵場：夏～秋、熱帯・亜熱帯域
- 索餌期・索餌場：夏、温帯域
- 食性：魚類（特にさば類）、頭足類
- 捕食者：調査中

漁業の特徴

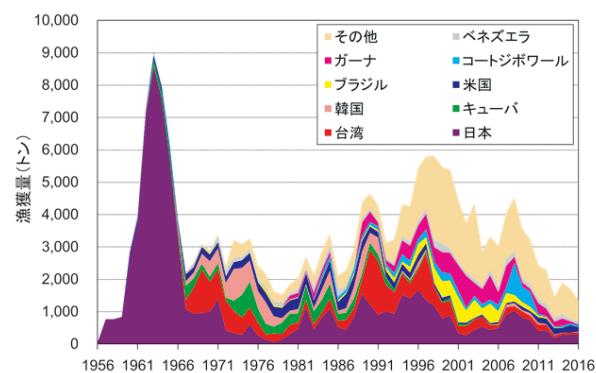
本種が主対象の漁業は米国、ベネズエラ、バハマ、ブラジル等のスポーツフィッシングとカリブ海諸国やアフリカ西岸諸国の沿岸零細漁業である。近年の漁獲は、日本や台湾等のまぐろ類を対象としたはえ縄漁業の混獲、及び、カリブ海諸国やアフリカ西岸諸国の沿岸漁業によるものである。

漁獲の動向

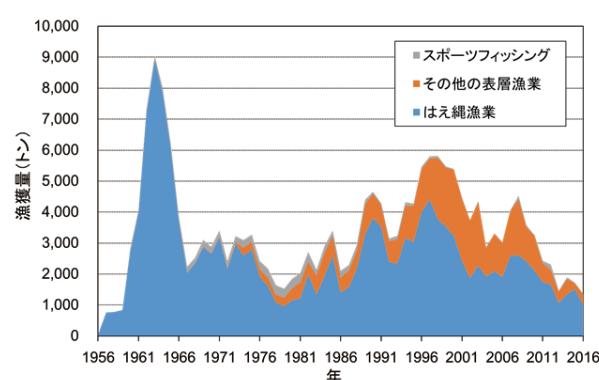
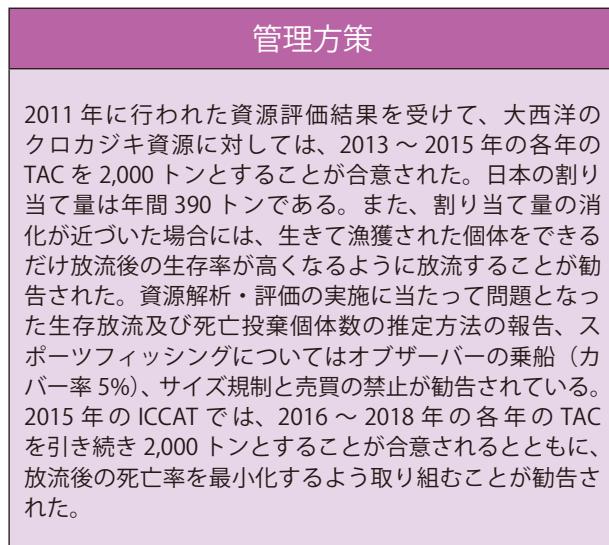
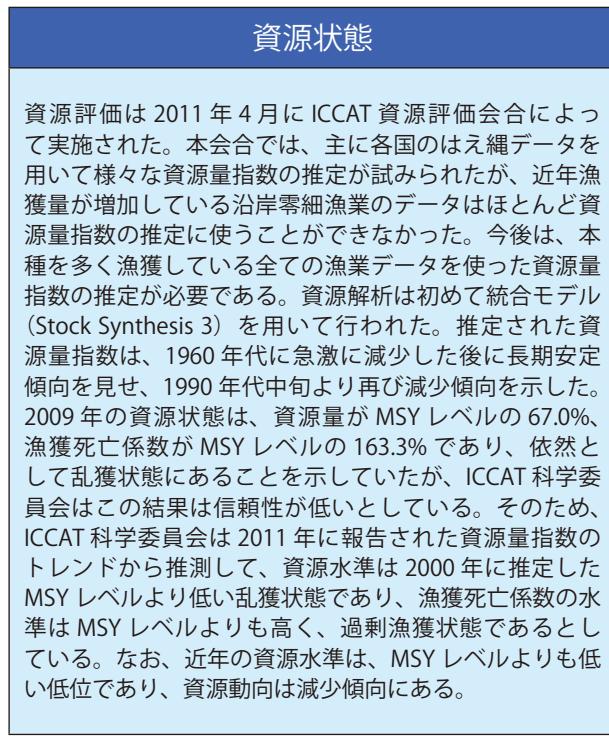
本種の漁獲量は 1979～1998 年に増加傾向を示し、1998 年に 5,812 トンに達した後、2000 年代中旬まで減少した。その後、再び増加から減少する傾向を示し、2013 年には 1,463 トンまで減少した。2016 年の総漁獲量は 1,367 トンであった。1990 年代中旬～2000 年代中旬には便宜置籍船によるはえ縄の漁獲等が増加した。また、沿岸零細漁業等が大きく漁獲をのばし、1990 年代下旬からはガーナ、コートジボワールといった沿岸零細漁業国がまとまつた漁獲を揚げる等、近年は新しい漁業国による漁獲が増えている。日本の漁獲量は、2007 年以降増加し 2008 年に 1,000 トンを上回ったが、その後減少しつつも 2016 年は 297 トンを記録し、漁獲量は国別で最多となっている。



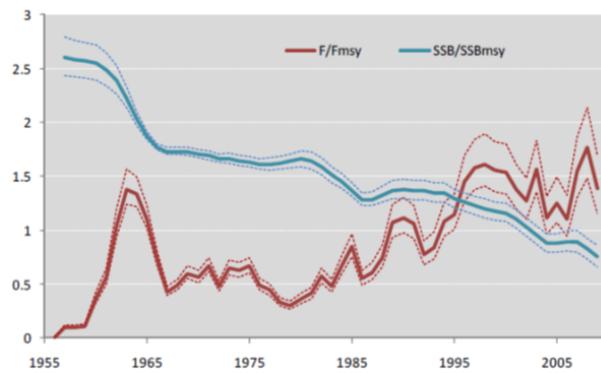
クロカジキ（大西洋）の分布



大西洋におけるクロカジキの国別漁獲量（2016 年は暫定値）



大西洋におけるクロカジキの漁法別の漁獲量（2016 年は暫定値）



Stock Synthesis 3 による資源解析結果
青実線は産卵親魚量の MSY 水準比 (SSB/SSB_{MSY})、青破線はその ± 10% 信頼限界を示し、赤実線は漁獲死亡係数の MSY 水準比 (F/F_{MSY})、赤破線はその ± 10% 信頼限界を示している。

クロカジキ(大西洋)の資源の現況(要約表)	
資源水準	低 位
資源動向	減 少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	1,367～2,306 トン 最近 (2016) 年 : 1,367 トン 平均: 1,751 トン (2012～2016 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	189～430 トン 最近 (2016) 年 : 297 トン 平均 : 298 トン (2012～2016 年)
管理目標	MSY : 目標値 2,837 (2,343～3,331) トン
資源評価の方法	Stock Synthesis 3 による
資源の状態	$SSB_{2009} < SSB_{MSY}$ $F_{2009} > F_{MSY}$
管理措置	2016～2018 年の TAC を 2,000 トンとする (日本の割当量は各年とも 390 トン) スポーツフィッシングについてオブザーバー乗船 (5%)、サイズ規制、漁獲物の売買禁止
最新の資源評価年	2011 年
次回の資源評価年	2018 年